

統一地方選「粛々と戦う」

公明党の
渡会県議

『大衆の党』として原点忘れず

本社で年始の決意

豊橋市選出県議で
公明党県本部副代表
兼政策局長、党県議
団長など務める渡会
克明氏(62)が4期目

Ⅱが3日、年始あい
さつに東愛知新聞社
を来訪した。昨年8
月に党公認を受け、
今年4月の統一地方

選で5選を狙う渡会
氏は、「これまで通
り党の役割を県政の
場で果たすよう、
粛々(しゅくしゅく)

と戦います」などと
意欲を語った。
「昨年は結党50周
年。今年は、公明系
の地方議員が初めて

誕生して60周年に当
たる節目。地方創生
のいま、地方から発
足した『大衆の党』
という原点を忘れ
ず、必要なことを言
い続けたい」と渡会
氏。昨年末の総選挙
勝利により「自民の
暴走を止める(党の)
役割を認めてもらっ
た」と総括した上で、
「地方創生における

県の役目として、市
町村やNPOなどが
うまく連携と協働を
進められるようリー
ダーシップをとり、
コーディネートに
なることが大切」と
強調した。

注目の県議選につ
いては、「前回(選挙
区定員5人中)トッ
プ当選だったが、票
数は減らし続けてい
る。何とか踏みとど
まなければ」と渡会
氏。「支援者たちが高
齢化し、組織に頼り
切ることほできない。
自公への批判票も脅
威」などと語り、危機
感を募らせる。今回
選挙でアピールする
点を「やはり安全。人
の命を守ることが大
切です。またモノづ
くりだけでなく、観

光や農業に関する施
策をスピーディーに
進めたい。いろいろ



な声を拾って、いま
でと違ったことに挑
戦するよう仕向け、

実績をつくっていか
なければ」と話した。
(藤田彰彦)

再選に向けての意欲を語る
渡会氏＝東愛知新聞社で